

津波想定を三度つぶした男

添田孝史

シンポジウム

全文公開／「吉田調書」から見えてきたもの

2014年10月15日

吉田氏の略歴

- 東京工大で原子核工学専攻
- 1979年 東京電力入社
- 1995～1999 電事連原子力部
- 2007～2010 本店原子力設備管理部長
- 20100628 ～ 福島第一所長

津波想定については

2011年8月8、9日「事故時の状況とその対応について3」

2011年11月6日「事故時の対応とその対応について」

電事連原子力部時代(1995~1999)



想定地震による津波高の傾向
(数値解析結果)

- 2.0m未満
- 2.0m以上～ 5.0m未満
- 5.0m以上～10.0m未満
- 10.0m以上

無印は計算対象範囲外

- 太平洋沿岸部地震津波防災計画手法調査(7省庁津波: 1997年3月)

→福島第一で8.6m

(1997年7月25日

電事連津波対応WG資料)

→のちの計算では13.6mに

原発に都合が悪い7省庁津波

- 日本海溝の津波地震を想定
 - 福島第一は既往最大のみ
- 数値解析のばらつきを考慮
 - 福島第一は考慮せず

報告書案を事前に入手。事務局のあった旧建設省に、旧通産省を通して圧力をかけた！

土木学会を利用する手口もこのころが発端

報告書案に細かく注文

7省庁報告書

想定し得る最大規模の地震津波を検討し、既往最大津波との比較検討を行った上で、常に安全側の発想から対象津波を設定する。

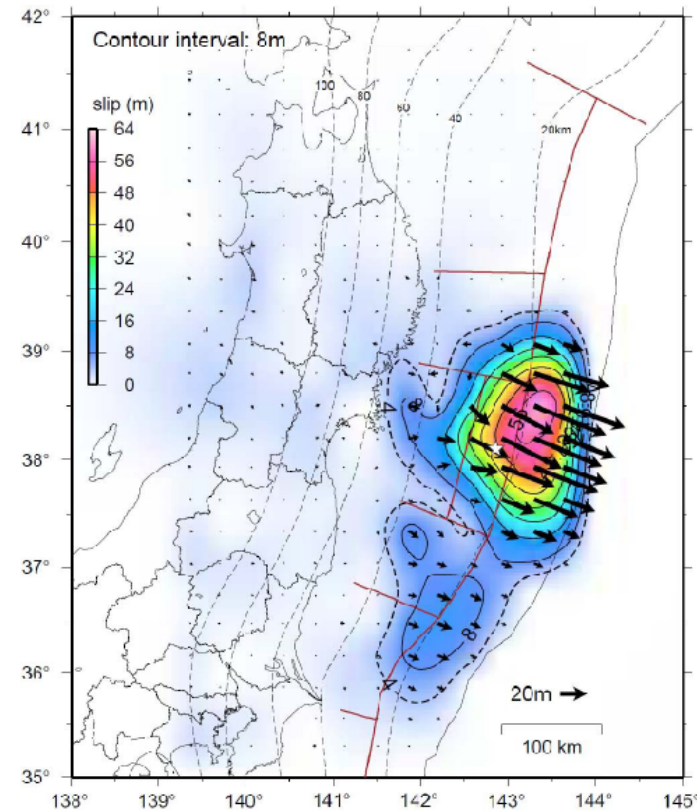
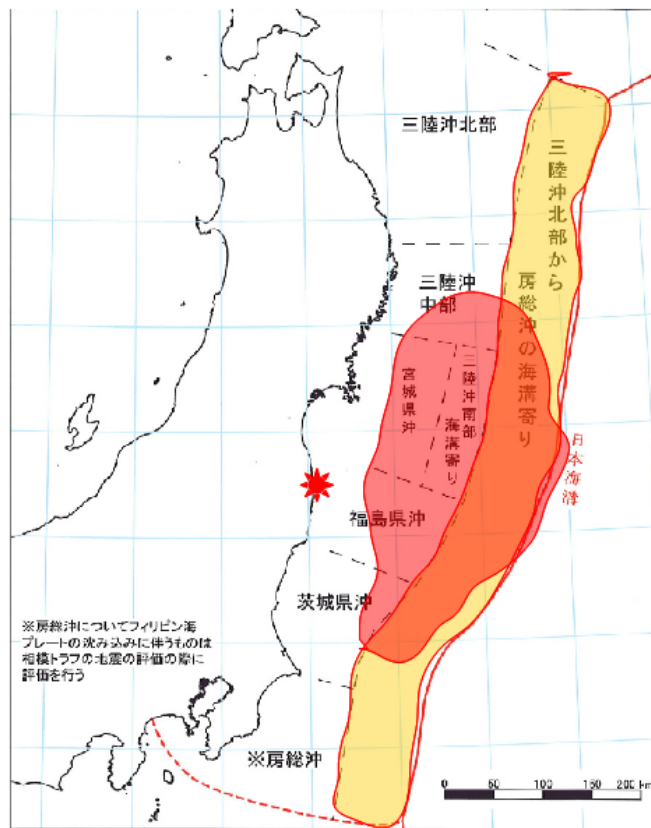
電事連

→削除要求

「常に安全側の発想から」の記載があると、事象の発生確率、対応するためのコストとは無関係に安全側の設定がなされる恐れがある。

原子力設備管理部長(2007~2010)

地震本部の長期評価(2002)



原子力設備管理部長(2007~2010)

- 地震本部の津波地震 15.7m

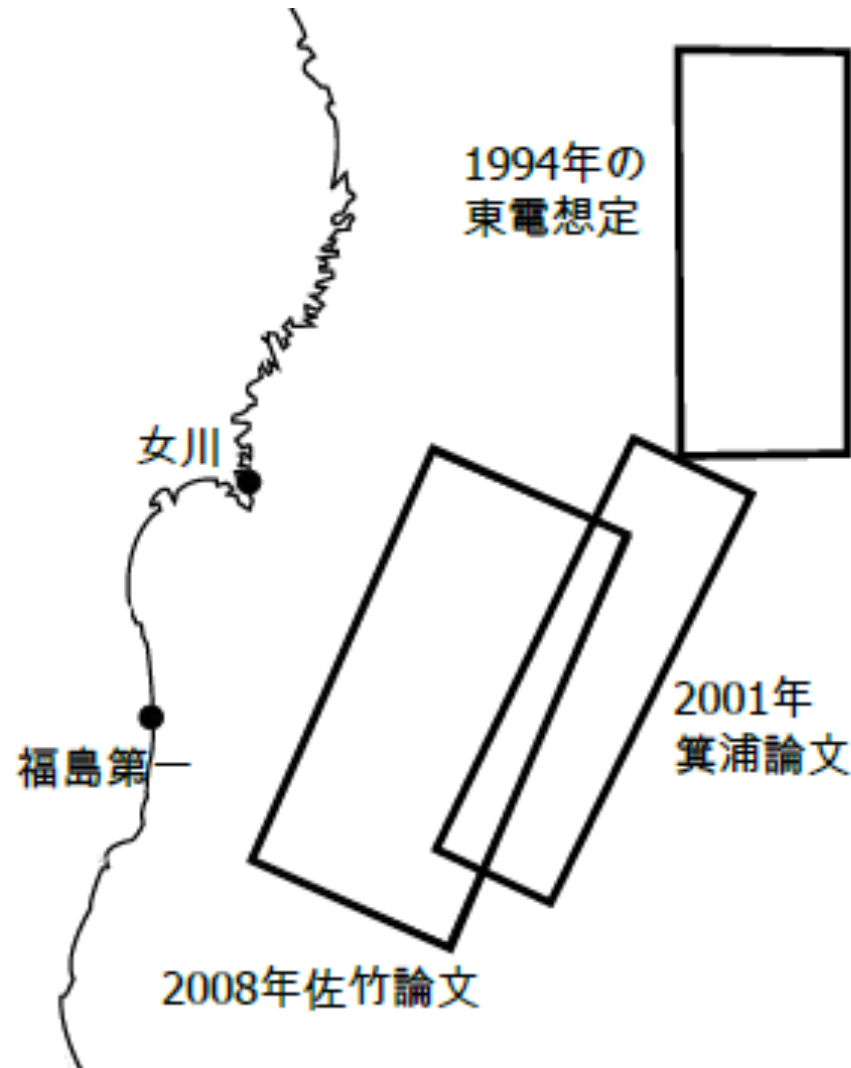
→2008年3月に試算結果

→土木学会に「審議」を依頼

「津波だとか地震のことについては全く素人でした」

「地震本部は波源を勝手に移動して、こんなところで起きたらどうだといったただけの話ですから」

原子力設備管理部長(2007~2010)



- 貞観津波
高さ9.2m
(パラスタで+3割)
→2008年11月に
試算結果

支離滅裂な回答

- 今回、貞観津波のお話をされる方には特に言いたいんですけども、貞観津波の波源で考えたときにも、うちの敷地は3mか4mぐらいしか来ないから、これは今の基準で十分持つという判断を1回しているわけです。貞観津波の波源のところにマグニチュード9が来ると言った人は、今回の地震が来るまではだれもいないわけですから、それを何で考慮しなかったんだというのは無礼千万だと思っています。

津波地震「無視も一案」と助言した科学者

- 発言者は阿部勝征・東大名誉教授だった。
- 東電にこうアドバイスした時(2008年12月10日)
地震本部地震調査委員会委員長
保安院の総合資源エネルギー調査会原子力安全・
保安部会耐震・構造設計小委員会委員長
中央防災会議委員

「無視するためには積極的な証拠が必要。津波堆積物の調査も一案」

→科学的に無意味